

回覧用							

発行日	令和5年8月2日
発行元	災害対策課
所属長	森本 仁信
電話	06-6489-6165

# 防災対策情報便



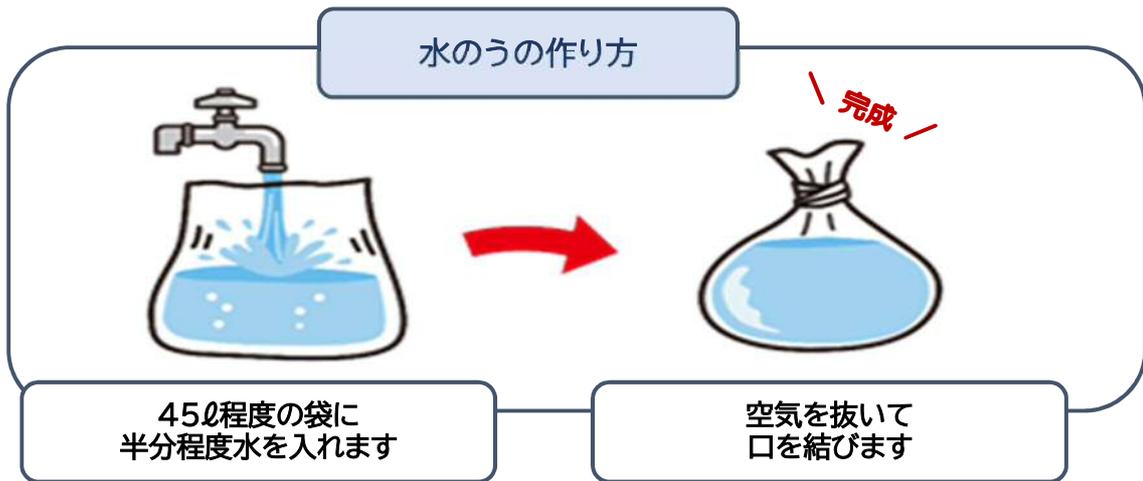
令和5年7月号

## 1 台風・大雨に備えて

### 浸水を防ぐ！“水のう”活用のススメ

台風や大雨の際に、自宅等が浸水する恐れがある場合、一般的に土を使った「土のう」で対策することが多いですが、女性やご高齢の方にとっては重く、扱いにくいかもしれません。

袋に水をいれた「水のう」なら、比較的持ち運びやすく、簡単に浸水対策ができますので、ぜひ作ってみてください。



普段のお掃除でも活用できますので、指定ゴミ袋を2枚重ねるなど、耐久性のある丈夫な袋で作ってください。



## 2 台風の大きさと強さ

気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、下表のように風速(10 分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速 15m/s 以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。

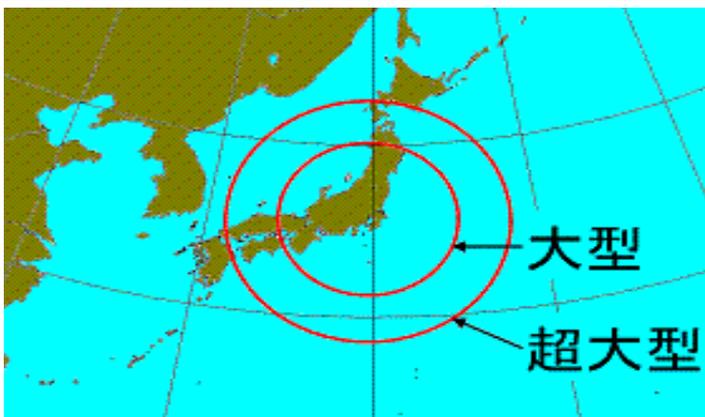
さらに、風速 25m/s 以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

### 強さの階級分け

階級	最大風速
強い	33m/s(64 ノット)以上~44m/s(85 ノット)未満
非常に強い	44m/s(85 ノット)以上~54m/s(105 ノット)未満
猛烈な	54m/s(105 ノット)以上

### 大きさの階級分け

階級	風速 15m/s 以上の半径
大型(大きい)	500km 以上~800km 未満
超大型(非常に大きい)	800km 以上



【国土交通省 気象庁ホームページ】

大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較するとこのようになります。

また、台風経路図は実況と5日先の予報を示しています。



台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。ただし、強風域の半径が 500km 未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が 33m/s 未満の場合には強さを表現しません。例えば「強い台風」と発表している場合、その台風は、強風域の半径が 500km 未満で、中心付近の最大風速は 33~43m/s で暴風域を伴っていることを表します。

なお、台風情報では暴風域を円形で示します。この円内は暴風がいつ吹いてもおかしくない範囲です。

### 3 急な大雨による災害

発達した積乱雲がもたらす大雨は、雷を伴って短時間に狭い範囲で激しく降ります。降り始めから、わずか10分程度で中小河川が増水したり、低地や道路のアンダーパス(線路や道路をくぐる地下部分)が冠水し、災害が発生することがあります。

また、川の上流で降った大雨により急に増水し、大雨が降っていない下流で水難事故が発生することがあります。

急激な大雨が降った場合は、川に近寄らないように注意し、アンダーパスのような低い場所では通行に注意が必要です。



写真：水害レポート2010より



写真提供：国土交通省九州地方整備局

おだやかな小川が、急に激しい流れに変わります。  
(写真：水害レポート2010より)

地下に水が流れ込むと逃げられなくなります。  
(写真提供：国土交通省九州地方整備局)

平成20年7月28日、神戸市の都賀川で増水した川です。  
この時は、上流で降った大雨により、わずか10分で川の水位が1m30cmも上昇しました。

増水前の都賀川

わずか10分で

増水時の都賀川



写真提供：神戸市



神戸市  
河川モニタリング  
カメラシステムより

写真提供：神戸市

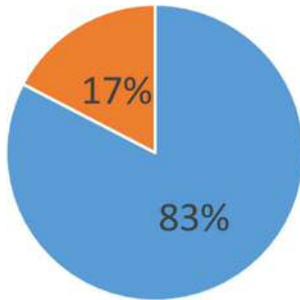
写真提供 神戸市【国土交通省 気象庁ホームページ】

## 4 防災資機材の保有状況を調査しました

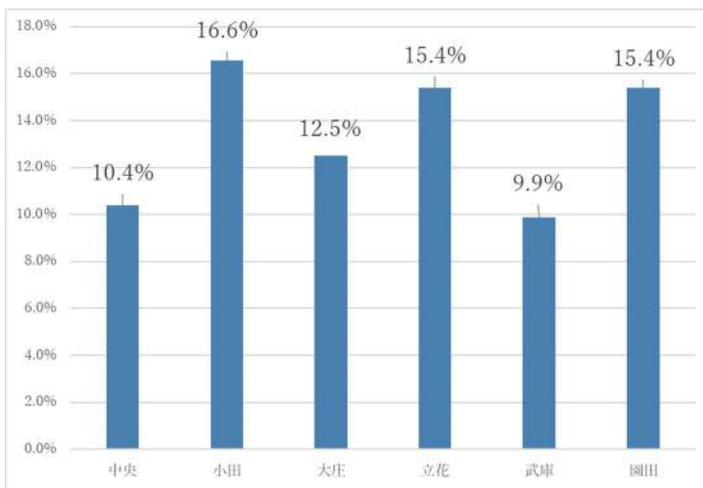
災害時に必要な防災資機材の保有状況について、75の自主防災会に協力をいただき調査を行いました。(コミュニティー資機材は除く。)

約8割の自主防災会は、兵庫県の補助制度や自主防災会の会費を活用して防災資機材の整備を進めていました。

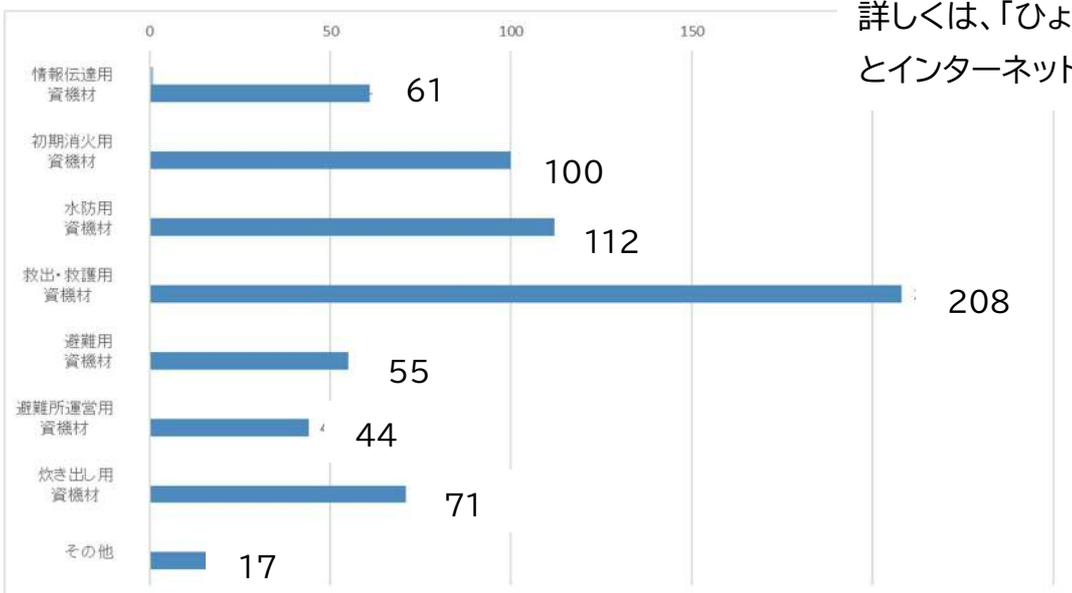
各自主防災会における防災資機材の保有状況



行政区別の防災資機材全種類に占める保有資機材の割合



防災資機材の分類と保有数



### 【主な調査結果】

・各自主防災会における防災資機材の保有状況について、75の自主防災会のうち、62の自主防災会が県の補助金や自主防災会の会費で防災資機材を整備している。

・行政区別の防災資機材保有状況については、各行政区で多少のばらつきが見られた。

・防災資機材の分類の中で、最も整備が進んでいたものは「救出・救護用資機材」であった。

特にボール、ハンマー、はしご、のこぎりといった身近で比較的安価なものの整備が進んでいた。

### <参考>

県が実施する「ひょうご安全の日推進事業」では、一定の条件を満たした場合、訓練を実施する自主防災会に対して補助をしています。

詳しくは、「ひょうご安全の日推進事業」とインターネットで検索してください。

